

4 - 8 自動光波観測による伊東沖の最近の変位 ——1990年11月現在

Recent Horizontal Displacement in the Off-Ito Seismovolcanic Region Detected by the Automatic Electronic Distance Measurement

東京大学地震研究所
地質移動観測班 恒石幸正

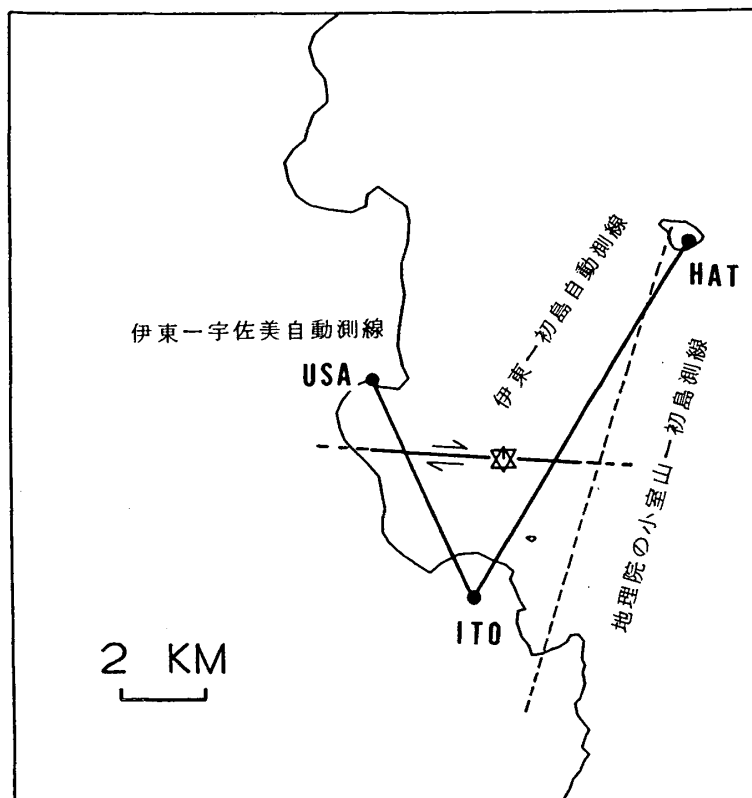
Yukimasa Tsuneishi
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

伊東～初島測線と伊東～宇佐美測線は、1989年7月の伊東沖群発地震活動と引きつづく海底噴火活動の領域を横断している(第1図)。自動光波観測は10分ごとに実施され、30回の測定値を得る。夜間12時間の平均値は旬別平均値としてまとめられ、さらに三旬の値を移動平均したものが第2図のグラフである。つまり、グラフの各点は1ヶ月平均値となっている。ただし、出発点の基準値は伊東～初島測線(HAT)では1989年7月12日の値を、伊東～宇佐美測線(USA)では1989年10月21日の値としてある。

1989年末から1990年初めにかけて、急激な伸長が見られたが、最近では短縮傾向を示している。これらの変化を恒石(1990)は地殻内の熱水対流によって解釈することを提案している。この期間において、震央距離30km付近で、1990年2月20日の伊豆大島近海地震と8月5日の箱根湯本の地震が発生しているが、これらの時期にグラフの傾向が変化しているように見える。

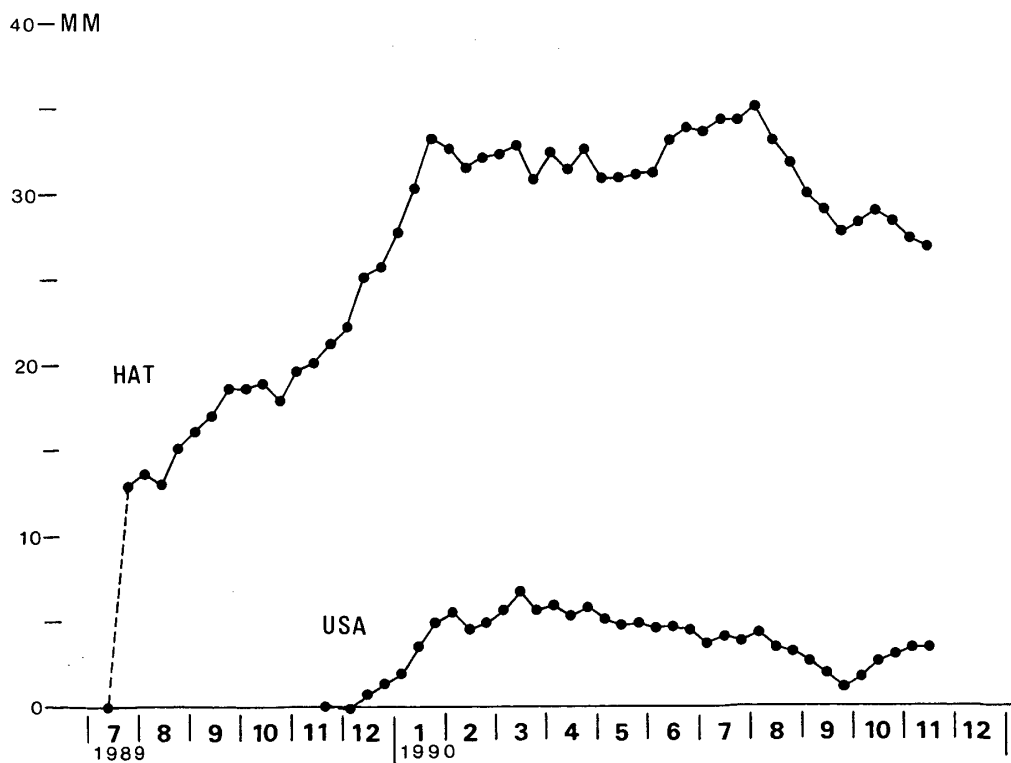
参 考 文 献

- 1) 恒石幸正(1990) : 1989年7月の伊東沖群発地震と海底噴火に対する自動光波観測, 地学雑誌 99, 153-165.



第1図 測線配置と手石断層および噴火地点

Fig. 1 Location of the measuring lines, the Teishi fault and the site of the submarine volcanic eruption.



第2図 伊東～初島測線 (HAT) と伊東～宇佐美測線 (USA)の最近の変位

Fig. 2 Change in distance on the Ito-Hatsushima line (HAT) and the Ito-Usami line (USA).